

2026 年（令和 8 年）7 月校長メッセージ「両国ご近所の博物館」

7 月 7 日、両国附属中の 1 年生は、「総合的な学習の時間」を使って近隣の博物館や美術館、資料館などの施設でのフィールドワークを行います。これは探究活動とキャリア教育を一体的に学ぶ両国の「志学（こころざしがく）」のカリキュラムの一環として、中学 1 年生が取り組む教育活動です。

今回、生徒たちがフィールドワークを行うのは、すみだ北斎美術館、両国花火資料館、本所防災館、たばこと塩の博物館、復興記念館・慰霊堂といった施設です。この校長メッセージの中で特に私が紹介したいのは「たばこと塩の博物館」で、学校から歩いて 15 分ほどのところにあります。もともと、この博物館は渋谷の公園通りに面した場所にありましたが、2015 年（平成 27 年）に墨田区に移転してきました。

博物館の名前の通り、ここではたばこの起源や日本へ伝来した後のたばこ文化、また、なぜ生き物が塩を必要としているのか、塩資源が世界にどのように分布しているのか、さらには日本の塩づくりの技術などが分かりやすく展示されています。

博物館の 3 階にたばこの展示があります。最初に目に飛び込んでくるのはたばこの起源に関するコーナーです。アメリカ大陸原産のナス科の植物が、現在のペルーやボリビア、アルゼンチンといった国々で栽培種として品種改良され、宗教的な儀式で使われる神聖な植物として引き継がれてきた歴史が紹介されています。また、15 世紀末にヨーロッパ人がアメリカ大陸へ渡ってその魅力に取り憑かれ、自国へ持ち帰った結果、世界中へ広がっていった経緯なども詳しく理解することができます。

日本では戦国時代末期から安土桃山時代の頃に、南蛮人と呼ばれるヨーロッパ人によってたばこがもたらされたと考えられています。江戸初期の風俗画には長いキセルを持った人物像が描かれるようになり、当時の流行の先端であったことがうかがえます。その後、商品作物としてたばこが全国で栽培されるようになり、嗜好品として愛好され、様々なたばこ盆やたばこ入れが生まれたことで、日本独自の工芸文化へと発展したことも分かります。また、江戸時代の浮世絵では、美しい女性が長いキセルを持つ姿が数多く描かれました。美人画の型の一つとして、キセルを持つ姿絵が定番となっていたのでしょう。明治以降になると、長キセルは紙巻きたばこへと変わり、パッケージのデザインに工夫を凝らしたり、宣伝用のポスターを作成したりといった激しい宣伝合戦が繰り広げられ、たばこをめぐる「文明開化」が起きました。このように、たばこを一つの「文化」として触れる貴重な機会となる展示となっています。

塩についての展示は 2 階にあります。塩コーナーの入り口には、「動物たちはなぜ塩を必要とするのか」を映像で解説するディスプレイが設置されています。地球最初の生命は海の中で誕生したことから、生き物は「体の内側に海を閉じ込めて生まれた」という内容の映像で、生物に塩が必要な理由がすんなりと腑に落ちます。

世界中にある塩湖や岩塩などの塩資源の分布を示す地図や、海水から岩塩がどのように

でき上がっていくかを説明した展示がある一方で、採掘された大きな岩塩がオブジェのようにフロアに置かれているのが目を引きまします。岩塩は、海水が地殻変動で陸に閉じ込められて結晶化・堆積した「海水の化石」であるという説明もあり、採掘後に地下に巨大な空間ができている様子も示されていました。

岩塩の採掘地を持たない日本は、海水からしか塩を獲得できないため、「海に囲まれていたとしても、実は塩に恵まれない国である」という指摘は、私自身少し驚きを持って解説を読みましました。また、日本の伝統的な塩づくりとして、海水から「かんすい」と呼ばれる濃い塩水をつくり、それを煮詰める手順が説明されていました。古代日本（縄文時代後期）にはすでに土器でかんすいを煮詰めていたそうです。海藻を使った塩づくりは「藻塩焼き」と呼ばれ、九州から東北まで広がっていきました。江戸時代には瀬戸内海で干満の差を利用する「入浜式塩田」が発達し、昭和には「流下式塩田」へと変わっていきます。そして、昭和 47 年には「イオン交換膜法」による塩づくりが始まりました。

塩は海水の中では、プラスの電気を帯びたナトリウムイオンと、マイナスの電気を帯びた塩化物イオンに分かれています。プラスイオンだけを通す陽イオン交換膜と、マイナスイオンだけを通す陰イオン交換膜を交互に並べ、電極に電気を通すと、膜の間にイオンが集まって濃いかんすいだけのスペースができます。この濃いかんすいを煮詰めて塩にするという方法は、理科や科学に興味がある生徒にとっては、とても面白く感じられる仕組みだと思います。

このように塩の展示には科学的な内容も多く、塩の結晶をどうつくるかという実験的な要素や、暮らしの中での食用以外の用途についての説明もあります。私たちが口にする塩の量よりも、工業用として使われる塩の量のほうがはるかに多いことも分かります。このように、たばこと塩の博物館は中学生にとって非常に興味深く、学びの深い施設となっています。本校の生徒たちが有意義な学習を行う場となることを期待しています。

今回は利用しませんが、学校からすぐに行くことができる最大の博物館といえば「江戸東京博物館」です。両国駅前にある、大規模かつ非常に特徴的なデザインの建物で、1993 年（平成 5 年）に開館して以来、大勢の中学生や高校生の学習の場となってきました。2022 年（令和 4 年）からの長期休館を経てリニューアル工事が行われ、2026 年（令和 8 年）3 月 31 日に待望のリニューアルオープンを迎えました。

私は以前にも、当時勤務していた学校の生徒を引率して同館を見学したことがあります。今回のリニューアルで展示がどのように変わったのか非常に興味があったため、先日実際に足を運んでみました。すると、以前からの定番の展示に加え、新設されたコーナーも数多くあり、好奇心をかき立てられる非常に魅力的な空間となっていました。

常設展示の入り口は 6 階にあります。入ってすぐの場所にある実物大の日本橋を渡ると、江戸の街並みを再現した巨大な模型が目の前に広がります。日本橋の繁栄と、その街で暮らす町人たちの様子が細かく再現されており、さまざまな角度からその暮らしぶりを

観察することができます。このフロアには江戸城や大名屋敷の復元模型もあり、武家と町人とは江戸の街の中でそれぞれどのように暮らしていたかがよく分かります。

エスカレーターで5階に降りるとテーマごとの展示に分かれており、江戸の街の様子や産業、文化をさらに深く知ることができます。リニューアルによって以前にはなかったテーマが加わり、より立体的に江戸の様子を学べるようになっていました。特に興味を引かれたのは「出版と情報」のコーナーです。昨年のNHK大河ドラマでは葛屋重三郎が主人公であったこともあり、関心を持つ方が増えているのかもしれません。また、江戸を中心とした近郊の開墾地や島しょ部との関係、交通路に関する展示もあり、膨大な人口を抱えるようになった江戸が、周辺地域からの物流によって成り立っていたことも理解できるようになっていました。

リニューアル前からある「中村座」の復元も、変わらず展示されていました。映画『国宝』などをきっかけに歌舞伎に興味を持った方には、非常に感慨深い展示ではないでしょうか。この中村座から日本橋の下をくぐると「東京ゾーン」の展示へと移る構成は、リニューアル前と同様です。文明開化によって銀座の街が煉瓦街へと変わっていく様子や、服部時計店の復元など、こちらも興味深く見学することができました。

さらに、リニューアル後に新しく加わったと思われる展示として、昭和の高度経済成長期から現代に至る「東京の生活史」のコーナーがありました。これらは私が子ども時代を東京で過ごした頃の風景そのものであり、どこか懐かしい思いに駆られました。壁には、私が小学生のときに欲しくてたまらなかった当時の最新サイクリング自転車が展示されており、当時の記憶が鮮やかによみがえってきました。

江戸東京博物館は、江戸・東京の歴史や文化、そして日本社会の変遷を知る上で、極めて貴重な資料を多数揃えた優れた博物館であると改めて実感いたしました。ぜひ現在の生徒たちにも、ここでフィールドワークをさせたいと考えています。

今回の「校長メッセージ」では、両国近隣にある重要で代表的な博物館を2か所紹介いたしました。これら以外にも、生徒たちが学びを深められる施設が両国周辺には数多くあります。今後もこれらを活用し、生徒たちの学びを豊かなものにしていきたいと考えています。

過去の校長メッセージ

2026年6月校長メッセージ	「都立中高一貫教育校の選び方」
2026年5月校長メッセージ	「おいしい甘酒の作り方」
2026年4月校長メッセージ	「Memory of Mankind」
2026年3月校長メッセージ	「時間について考えたこと」
2026年2月校長メッセージ	「キャリア教育優良校文部科学大臣表彰受賞について」
2026年1月校長メッセージ	「ガザのお父さんからの日本の中高生へのメッセージ」
2025年12月校長メッセージ	「唐獅子さん」

2025 年 11 月校長メッセージ	「カーボンリサイクル」
2025 年 10 月校長メッセージ	「辞書を食べる」
2025 年 9 月校長メッセージ	「恐竜の死体が化石化するプロセス」
2025 年 8 月校長メッセージ	「グラフを発明したのは誰か」
2025 年 7 月校長メッセージ	「早朝の両国にいるオナガは一体どこから来るのか」
2025 年 6 月校長メッセージ	「現代社会における霸道と王道」
2025 年 5 月校長メッセージ	「おいしいラッシーの作り方」
2025 年 4 月校長メッセージ	「『NEXUS 情報の人類史』を読んで考えたこと」